TADOKU JUNIOR むかしばなし ★★★☆☆ ふつう 368語

The Princess on the Pea

えんどう豆の上のお姫さま

Hamilton Wright Mabie (ed.)（1905年の本） 原文そのまま 朗読：jedopi

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ ほんもののおひめさまをさがす王子さま。あらしの夜、ずぶぬれのむすめが「わたしはほんもののおひめさまです」とやって来ます。おきさきさまのためし方とは？



There was once a prince who wanted to marry a princess; but she was to be a real princess. So he travelled about, all through the world, to find a real one, but everywhere there was something in the way. There were princesses enough, but whether they were real princesses he could not quite make out: there was always something that did not seem quite right. So he came home again, and was quite sad: for he wished so much to have a real princess. One evening a terrible storm came on. It lightened and thundered, the rain streamed down; it was quite fearful! Then there was a knocking at the town gate, and the old king went out to open it.

It was a princess who stood outside the gate. But, mercy! how she looked, from the rain and the rough weather! The water ran down from her hair and her

clothes; it ran in at the points of her shoes, and out at the heels; and yet she declared that she was a real princess.

"Yes, we will soon find that out," thought the old queen. But she said nothing, only went into the bedchamber, took all the bedding off, and put a pea on the flooring of the bedstead; then she took twenty mattresses and laid them upon the pea, and then twenty eider-down beds upon the mattresses. On this the princess had to lie all night. In the morning she was asked how she had slept. Page 295

"Oh, miserably!" said the princess. "I scarcely closed my eyes all night long. Goodness knows what was in my bed. I lay upon something hard, so that I am black and blue all over. It is quite dreadful!"

Now they saw that she was a real princess, for through the twenty mattresses and the twenty eider-down beds she had felt the pea. No one but a real princess could be so delicate.

So the prince took her for his wife, for now he knew that he had a true princess; and the pea was put in the museum, and it is there now, unless somebody has carried it off.

Look you, this is a true story.

むかし、おひめさまとけっこんしたいと思っている王子さまがいました。でも、それはほんもののおひめさまでなければなりませんでした。そこで王子さまは、ほんもののおひめさまを見つけるために、世界じゅうを旅して回りました。でも、どこへ行っても、何かしらうまくいかないことがありました。おひめさまは、たくさんいました。けれども、ほんもののおひめさまかどうか、王子さまにはどうしてもよくわかりませんでした。いつも、どこか、ちょっとおかしいところがあったのです。それで王子さまは、また国に帰ってきて、とてもしょんぼりしていました。ほんもののおひめさまが、それはそれはほしかったからです。あるばん、ものすごいあらしになりました。いなずまが光り、かみなりが鳴り、雨がざあざあふりました。とてもおそろしい夜でした！そのとき、町の門をトントンとたたく音がしました。年とった王さまが、門を開けに出ていきました。

門の外に立っていたのは、ひとりのおひめさまでした。けれども、まあ！ 雨とひどい天気のせいで、なんというすがたになっていたことでしょう！かみの毛からも服からも水がしたたりおち、水はくつの先から入って、かかとから出ていきました。それなのに、そのむすめは、わたしはほんもののおひめさまです、と言うのです。

「ええ、それはすぐにわかりますとも」と、年とったおきさきさまは心の中で思いました。でも、おきさきさまは何も言わずに、ただねるへやへ行って、ふとんをすっかりどけると、ベッドの台の上にえんどう豆をひとつぶおきました。それから、しきぶとんを20まい、そのえんどう豆の上にかさね、さらにその上に、羽ぶとんを20まいかさねました。おひめさまは、その上でひとばんねることになりました。朝になって、おひめさまは、よくねむれましたか、とたずねられました。（295ページ）

「まあ、ひどいものでしたわ！」とおひめさまは言いました。「ひとばんじゅう、ほとんど目をつぶれませんでしたの。ベッドの中に何があったのか、さっぱりわかりませんわ。何かかたいものの上にねていたので、からだじゅう、あざだらけですのよ。ほんとうに、ひどいことですわ！」

これで、そのむすめがほんもののおひめさまだとわかりました。20まいのしきぶとんと20まいの羽ぶとんをとおして、えんどう豆を感じたのですから。ほんもののおひめさまでなければ、こんなにびんかんなはずがありません。

そこで王子さまは、そのむすめをおきさきにむかえました。これで、ほんもののおひめさまを見つけたとわかったからです。そしてえんどう豆は、はくぶつかんにおさめられました。だれかが持っていってしまっていなければ、今もそこにありますよ。

ほらね、これはほんとうのお話なのですよ。

たんご と クイズ　えんどう豆の上のお姫さま

prince 王子さま	**princess** おひめさま	**real** ほんものの
storm あらし	**gate** 門	**pea** えんどう豆
mattresses しきぶとん		

Q1 王子さまは、どんなおひめさまとけっこんしたかった？

① ほんもののおひめさま　② お金持ちのおひめさま　③ 歌がうまいおひめさま

Q2 おきさきさまは、ベッドの台の上に何をおいた？

① バラの花　② えんどう豆　③ 小さな石

Q3 むすめがほんもののおひめさまだとわかったのは、どうして？

① 王子さまがそう言ったから　② 豆を感じて、よくねむれなかったから

③ きれいなドレスを着ていたから

こたえ

Q1 ① 王子さまは、ほんもののおひめさまとけっこんしたいと思って、世界じゅうをさがして回りました。

Q2 ② おきさきさまは、えんどう豆を1つぶおいて、その上にしきぶとんと羽ぶとんを20まいずつかさねました。

Q3 ② 40まいのふとんをとおして豆を感じたので、ほんもののおひめさまだとわかったのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #14916（Hamilton Wright Mabie (ed.)、1905年）。パブリックドメイン。

挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。

朗読（Web版）：jedopi（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）

和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。